

〔『法学新報』第31巻4(352)号 大正10年4月1日〕

○中央大学経済学会の青年 去る三月二十日を以て九年度に於ける経済学会の事業を終りたり今当期に於ける其会務を回顧して記録に止むる所あるへし(一)懸賞研究論文第一回の発表

——大正九年六月二十六日新入学生の歓迎を兼ね第十六号室に於て開会、会長桑田博士の出題「労働組合」に関する研究当選論文の発表を為す折柄の雷雨を冒し来り会する者甚だ多く定刻前既に堂に満つ会長並に先輩諸賢の著席を待ち午後六時柴田委員開会を宣し直に研究の発表に移る安藤直次郎君(二年級)、大澤悦二君(三年級)、小菅豊次郎君(三年級)、柴田武君(三年級)相次て研究の発表を試みたるか時既に移りたるを以て淺利委員閉会の辞を述ふる所ありて散会す時に十時三十五分なりき審査の結果小菅豊次郎君は一等に、柴田武君は二等に、大澤悦二君は三等に、安藤直次郎君は三等に当選したり(二)会長渡欧見送——大正十年一月十七日午後〇時三十分、桑田博士外遊の途に就かせらるゼネバに於ける万国赤十字大会に列席せられたる帰途、独露の近情を探られむか為めなり於茲本会は主催と為り経済科の学生相寄り東京駅頭に先生を送る一同集りて先生を囲み紀念の撮影を為し委員柴田武君学生を代表して送別の辞を述ふる所ありたり(三)懸賞研究論文第二回の発表——予

て富田先生より与へられたる「我国投機取引抑制の方法」「大正九年に於ける恐慌の原因」に付きて懸賞論文の募集を了へ発表の機を待ちつつありしか学期末に近づきたることとて愈々二月十二日午後七時より第四号室に於て卒業生送別の意をも寓して之か当選論文の発表を為すこととせり当夜は氷雨頻りに降り寒氣酷烈にして何となく肅条たる感を呈したれとも猶ほ熱心の学徒集るもの六七十名に上りたり定刻馬場、佐藤両先生の御著席を待ちて紀念の撮影を為し之を了るや柴田委員開会を宣し直に当選者の研究発表に移る初め三等二席齋藤武廣君(一年級)の研究は同君の出席を得ざりし為め星野委員論文を代読することとせり次て三等一席安藤直次郎君(二年級)は起ちて「我国投機取引抑圧の方法」につきて結論のみを述べ次て一等柴田君(三年級)登壇し「大正九年恐慌襲来の原因」につき統計を用いて詳述する所あり之を以て研究の発表を終りたれば右に対し馬場先生より御懇篤なる御批評を賜はる所ありたり時に九時四十五分卒業生送別の茶話会を開催せんか為め経済学会は之を閉つることとし淺利委員の閉会の辞に依りて直に茶話会に移り一、二学年両級代表者の送別の辞、三年級代表者の答辞あり更に「テーブル、スピーチ」に於ては或は卒業後の抱負を語るものあり時事問題を説くものあり進んては学校に対する希望を述ふるものあり是に對しては理事者として馬場先生より御答へある等一同胸襟を開きて歓談し時の過ぐるを知らざりしも夜もいたく更けたれば万歳を三唱し尽きざる興趣の名残りを惜みつつ帰路に著きたるは十一時二十分なりき願へは馬場先生には御繁

忙の期にも不拘深更まで御出席を賜り或は御批詐に御教示に御懇情を辱ふし更に会長桑田博士の不在中は会務に付て御指導を仰き得るに至りしは委員の歡喜譬ふるものなし茲に謹んで先生の御懇情を肝銘深謝して止まさる次第なり又富田先生には御繁用中を枉けて論文の審査を冀ひたるにも不拘御出席の機を得さりしは罪一に委員にあるものにして茲に謹んで先生の御寛恕を仰きて止ます（一委員記）